

SDGs未来都市
OKINAWA



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

沖縄県は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和6年度 第1回 SDGs専門部会

会議資料 (案)

令和7年1月30日

会議次第

1 開 会

2 委員紹介

3 議事

(1) モニタリング報告書(素案)について

(関連資料)

「資料2」 モニタリング報告書(素案)

「資料3」 国連SDGs報告書2024(概要)

(2) 沖縄SDGsモニタリング／サマリー(仮称)について

(3) 意見交換

4 閉 会



令和5年度からモニタリングを実施しており、「SDGs専門部会」、「SDGsアドバイザーリーボード会議」の意見を収集し、「令和5年度沖縄県SDGsモニタリング報告書」を「沖縄県SDGs推進本部」に報告後、公表したところ。

毎年度、モニタリング報告書を「沖縄県SDGs推進本部」に報告することとなっているため、令和6年度も同様に実施する。

<モニタリングを実施する背景>

1 国内の状況

- (1) 令和5年12月の国の持続可能な開発目標（SDGs）推進本部（本部長：内閣総理大臣）において、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」が改定されたところ。
- (2) 同実施指針において、モニタリングに関連し、以下の内容が地方自治体に対し期待する取組として記述されている。
 - ①進捗を管理するガバナンス手法を確立すること。
 - ②情報発信と成果の共有としてSDGs達成に向けた取組を的確に測定すること。
 - ③ロカール指標を設定すること。

2 沖縄県の状況

- (1) 令和3年9月の沖縄県SDGs推進本部において、「沖縄県SDGs実施指針」が決定されたところ。
- (2) 同実施指針において、モニタリングに関連し、以下の内容が位置づけられている。
 - ①取組状況等のモニタリング（進捗のフォローアップ）を実施
 - ②SDGs達成に向けた進捗状況等を、多くの人々の参画のもと透明性をもって点検し、フィードバックを図る（SDGs専門部会、SDGsアドバイザーリーボードに役割を位置づけている）
- (3) 令和5年3月に開催された「沖縄県SDGs推進本部」において、令和5年度から毎年度、モニタリング報告書を同本部に報告することが確認されている。

第1章 報告書作成の背景

- ・モニタリングの目的・位置づけ、背景について

第2章 モニタリングにかかる外部動向

- ・「SDGsの進捗を管理する方法」の先進事例について、どのようにモニタリングを行っているかを整理

第3章 モニタリングプロセス

- ・報告書におけるモニタリングの概要及びモニタリング推進体制について

第4章 沖縄県内のSDGsに関するモニタリング

- (1) 17のゴールごとのモニタリング
- (2) 「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング

第5章 沖縄県内のSDGs活動状況

「おきなわSDGsプラットフォーム」を含めた沖縄県の実践

「おきなわSDGsプラットフォーム」会員の取組事例

ゴールごとのモニタリングについて

- 県内の進捗状況をモニタリングするため、前年度と比較する必要があることから令和5年度で選定した指標でモニタリングを実施している。
- 指標の設定にあたっては
 - ・ 全国値との比較可能な「共通指標」
 - ・ 地域特性を補完する「ローカル指標」
 - ・ 年次でデータ取得が可能なものを選定して評価
- SDGsのモニタリングについては、様々なアプローチがあるが、以下の視点から、当面は独自に選定した指標によるモニタリングを実施することとした。
 - ・ 選定した指標によりモニタリング結果が大きく変化（地域に合わせた評価が有効）
 - ・ 安定した毎年のデータ更新（時期を含め）、各指標データ取得などに注視が必要

（参考にした指標群の例）

地方創生SDGsローカル指標リスト （内閣府）

SDGs達成度評価指標 （自治体SDGsモニタリング研究会）

ゴールごとのモニタリングの追加指標について

SDGsの17のゴールごとの指標について、令和5年度の専門部会で頂いたご意見を踏まえて、年次取得可能な指標を改めて調査し、新たに4つの指標（全国値のデータを取得することが可能である「共通指標」2つと、全国値との比較を目的としない沖縄県の地域特性を補完する「ローカル指標」2つ）を追加した。

＜令和6年度追加指標＞

ゴール	属性	追加指標名	令和5年度専門部会で頂いたご意見
3	共通	合計特殊出生率	ゴール3「すべての人に健康と福祉を」の項目に本県の合計特殊出生率を加える必要性はないか。（少子化への対応⇒安心して子育てできる環境の実現や子どもが生き生きと活動できる環境の形成というアクションプランに連動）
4	共通	採用後10年までの正規雇用の教員のうち、特別支援教育に関する経験(※)が2年以上ある教員（公立のみ、全学校種）	全ての人々に包摂的かつ公平でということと考えるのであれば、特別支援学校に通っている子どもたちの話があると思います。特支に対して教員が明らかに足りていないし、特支に通う子どもは増えています。そういったところ、そういった子ども達にもちゃんと平等に学ぶ機会が与えられているということの方が合っていると思います。
12	ローカル	レジ袋辞退率	普段環境を扱っていると沖縄の環境は全国で取っているデータと違うと思う部分が多くありまして、そういう時には全国にあるデータでないと項目に選ばないというのは、分野的にはあまり適当ではないと思いました。
15	ローカル	森林整備面積	

※特別支援学校の教職経験、特別支援学級の学級担任の教職経験、特別支援学級の教科担任の教職経験、通級による指導の経験、特別支援教育コーディネーターの教職経験

ゴールごとのモニタリングの評価方法について

SDGsの17のゴールごとに選定した指標について、沖縄県の現状値・前年値、全国値を収集・整理し、各指標の評価と各ゴールの評価を行った。評価にあたっては、進展度と全国値との比較結果の2つの視点から評価を行った。

＜進展度の評価＞

SDGsの17のゴールごとに選定した指標について、以下の進捗状況の評価基準をもとに、前年値と現状値の変化率※を「前進」・「横ばい」・「後退」の3段階評価を行い、以下の矢印の表示により記載する。また、それぞれの割合をゴールごとに算定する。

表示	「進捗状況」評価基準
	前進：前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上（前進の方向を+として評価）
	横ばい：前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
	後退：前年値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下（後退の方向を-として評価）

※変化率（%）の計算式＝（ α 年度値－（ α －1）年度値）／（（ α －1）年度値）
現状値と比較する前年値のデータが公表されていないなどの理由で評価が出来ない指標は「その他」とし、今後データ更新が行われた際に評価を行うこととする。

＜全国値との比較結果＞

SDGsの17のゴールごとに選定した指標の内、全国値との比較が可能な指標（共通指標）については、「達成」・「未達成」の評価を行い、以下の矢印の表示により記載する。

表示	「全国比」評価基準
	全国値を達成している指標
	全国値を未達成の指標

アクションプランのモニタリングの評価方法について

「おきなわSDGsアクションプラン」は、SDGsの17のゴール及びターゲットを踏まえ、地域課題の解決とSDGsの目標達成に向けたモニタリング指標としてローカル指標を設定している。アクションプランでは、プラン策定時の沖縄県の現状値（基準値）と目標値を掲げており、これらの進捗状況をモニタリングの中でフォローアップする。

アクションプランのローカル指標に関する評価方法

① 進捗度の評価

各指標の評価については、基準値と現状値を比較し、変化率※を「前進」・「横ばい」・「後退」の3段階評価で評価する。

表示	「進捗状況」評価基準
	前進：基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上（前進の方向を+として評価）
	横ばい：基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
	後退：基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下（後退の方向を-として評価）

※変化率（%）の計算式＝（ α 年度値－基準値）／（（基準値）
各統計方法の特性上、基準値と比較する現状値のデータが示せない指標は「その他」とし、統計データが確認できる年度に評価を行う。

② 達成度の評価

各指標の評価については、目標値に対する現状値の割合から目標値に対する達成度を算出する。

$$\text{達成度（\%）} = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{目標値} - \text{基準値}) \times 100$$

※各統計方法の特性上、現状値が示せない指標については、統計データが確認できる年度に評価を行う。

ゴールごとのモニタリング／アクションプランのモニタリング 指標の経年変化の見せ方について

指標の経年変化が分かるよう、別紙（Excel形式）を作成した。

SDGsの17のゴールごとの指標は、報告書本編に「前年値（ $\alpha-1$ ）」及び「現状値（ α ）」のみを掲載し、別紙に「前前年値（ $\alpha-2$ ）」以前の数値を掲載する。

「おきなわSDGsアクションプラン」の指標は、報告書本編に「基準値」及び「令和6年度報告書時点の現状値」のみを掲載し、別紙に「令和5年度報告書時点の現状値」以前の数値を掲載する。

<別紙（Excel形式）のイメージ>

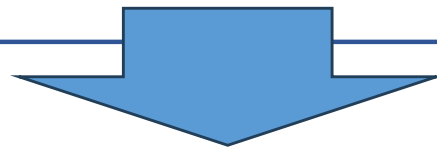
令和6年度 沖縄県SDGsモニタリング報告書（別紙）				変化率の計算式：変化率（％）＝（α年度値－（α-1）年度値）÷（（α-1）年度値）×100 数値が小さいほど良い指標については、計算結果の符号を反転する。									
第4章 沖縄県内のSDGsに関するモニタリング													
1 17のゴールごとのモニタリング													
対応 ゴー	No.	属性	指標名	沖縄県データ					全国データ			現状値 全国比	出典
				(α-2)年度値	(α-1)年度値	令和6年度報告書時点の 現状値（α年度値）	(α-1)年度値～現状値 変化率（％）	(α-1)年度値～現状値 評価	(α-2)年度値	(α-1)年度値	令和6年度報告書時点の 現状値（α年度値）		
1	1	共通	人口1人当たり生活保護費	6,777円（R2年度） 生活保護費： 9,941,642千円 総人口：1,467千人	7,017円（R3年度） 生活保護費： 10,300,815千円 総人口：1,468千人	6,729円（R4年度） 生活保護費： 9,878,094千円 総人口：1,468千人	+4.1	横ばい	1,854円（R2年度） 生活保護費： 233,826,787千円 総人口：126,146千人	1,878円（R3年度） 生活保護費： 235,717,510千円 総人口：125,502千人	1,867円（R4年度） 生活保護費： 233,323,850千円 総人口：124,947千人	↓	総務省「都道府県別決算状況調」 https://www.soumu.go.jp/iken/kessan_jokyo_1.html
1	2	共通	生活保護率	2.25%（R4年9月）	2.28%（R5年9月）	2.28%（R6年9月）	+0.0	横ばい	1.62%（R4年9月）	1.62%（R5年9月）	1.62%（R6年9月）	↓	厚生労働省「被保護者調査」 https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/74-16.html
1	3	共通	1か月当たり可処分所得（勤労者世帯）	316,910円（R3年度）	337,316円（R4年度）	321,852円（R5年度）	-4.6	横ばい	426,022円（R3年度）	435,001円（R4年度）	425,967円（R5年度）	↓	総務省統計局「家計調査（家計収支編）」 https://www.stat.go.jp/data/kakei/npsf.html
1	4	ローカル	経済的理由による中途退学者数（国公立高等学校）	74人（R3年度）	28人（R4年度）	39人（R5年度）	-39.3	後退	－	－	－	対象外	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm

「沖縄SDGsモニタリング／サマリー（仮称）」について

令和５年度モニタリング報告書については、昨年度のSDGs専門部会、SDGsアドバイザーボード会議において、委員の皆様から以下の意見等があるところ

（主な委員意見）

- ・ 県の進捗状況について、その要因、理由等を整理できないか。
- ・ 進捗状況を踏まえ、課題や今後の取り組みについて整理できないか。
- ・ 県民に伝える手段として主観的な指標を検討できないか。
- ・ 定量的なものだけでなく、定性的なものも含め、わかりやすく伝えるためサマリーのようなものが必要ではないか。



SDGs専門部会、SDGsアドバイザーボードの委員の皆様からの意見を踏まえ、

令和７年度に「沖縄SDGsサマリー（仮称）」を作成

※今後議論しながら構成については検討

沖縄県SDGsモニタリング

令和5年度から県内のSDGs取組状況等の把握のため、「沖縄県SDGsモニタリング報告書」を作成

①17のゴールごとのモニタリング

- ・全国値と比較可能な「共通指標」と地域特性を補完した「ローカル指標を設定。年次でデータが取得が可能なものを選定して評価

②おきなわSDGsアクションプランのモニタリング

- ・「12の優先課題」の「SDGs推進の目標」に位置付けた「ローカル指標」について評価

③沖縄県内の取組状況

- ・おきなわSDGsプラットフォームを含めた沖縄県の取組
- ・おきなわSDGsプラットフォーム会員の取組事例

沖縄県SDGsサマリー（仮称）

- 1 モニタリングをもとに、SDGsの取組に対する客観的な分析から課題解決に向けた具体的な取り組みを明らかにし、SDGsの取組の更なる展開を図る。
- 2 モニタリング報告書の深化を図り、県内のSDGsの取組の状況等を県民に分かりやすく共有し、取組の見える化を図る。

＜期待される効果＞

- SDGsの達成状況の変化を客観的に評価・分析し、強みや課題を明らかにする。
- ステークホルダーによる新たな取り組みの創出や取り組みの見直しを行い、効果的な取り組みの促進を図る。

「沖縄SDGsサマリー（仮称）」の検討作業イメージ

SDGs達成に向けた進捗状況等を、多くの人々の参画のもと透明性をもって点検し、フィードバックを図るとともに、SDGs達成の加速化のためサマリーを実施し、効果的な取組の促進を図る。

方向性の検討

- ✓ サマリーの対象（誰に対して）
- ✓ サマリーの目的（どのような目的で）
- ✓ サマリーの柱となるデータ（どのような情報を発信するのか）
- ✓ サマリー作成の周期（何年毎の作成とするのか）

方向性の確認

- ✓ サマリーの方角性の整理
- ✓ たたき台作成に向けて構成の検討

たたき台の作成

- ✓ サマリー指標の整理
- ✓ 専門部会、アドバイザーリーボードを通じて、たたき台のブラッシュアップ

素案作成

- ✓ たたき台をもとに、素案を作成
- ✓ 専門部会、アドバイザーリーボードを通じて、素案のブラッシュアップ

最終化

- ✓ 沖縄県SDGs推進本部へ報告